

大項目として7章、中項目で14項目、設問73項目を設け自己評価しています。中項目を集計して公表いたします。

評価 A:かなりできている B:ほぼできている C:あまりできていない D:ほとんどできていない
数字は自己評価した保育者の人数です。

第1章 総則

1、教育及び保育の基本と目標(設問3項目)

* 保育所の法令や保育方針への理解を問うている

A	B	C	D	該当なし
8	7			

2、特に配慮すべき項目

(1)教育及び保育の配慮(設問3項目)

* 子どもへの観察力、接し方を問うている

A	B	C	D	該当なし
8	7			

(2)健康支援(設問6項目)

* 子どもの体調に対する対応力(保護者連絡のタイミングを含む)を問うている

A	B	C	D	該当なし
24	6			

(3)食育(設問4項目)

* 食物アレルギーを持っている子どもへの配慮や、食育への理解度を問うている

A	B	C	D	該当なし
9	7	3		

(4)特別支援教育・障がい児保育(設問4項目)

* 特別に支援が必要な子どもへの理解と専門的知識を問うている

A	B	C	D	該当なし
11	9	1		

第2章 こどもの発達(設問4項目)

* 差別のない保育への心がけや子どもの発達への知識を問うている

A	B	C	D	該当なし
10	10			

第3章 「ねらい」及び「内容」

1、保育内容「健康」(設問5項目)

* 健康的な生活ができるよう配慮しているかなどのほか、災害時の準備、対応力を問うている

A	B	C	D	該当なし
17	8			

2、保育内容「人間関係」(設問5項目)

* 友達などとの関わりかたへの支援や、子どもの自立にむけた配慮を問うている

A	B	C	D	該当なし
10	10			

3、保育内容「環境」(設問4項目)

* こどもがすくすく育つ環境を準備することが出来たか問うている

A	B	C	D	該当なし
7	10	2		

4、保育内容「言葉」(設問4項目)

* 子どもの発達や理解力に添った言葉がけや、言葉の面白さを引き出せているかを問うている

A	B	C	D	該当なし
9	11			

5、保育内容「表現」(設問4項目)

* 歌や音楽、絵などを通じて楽しさを創りだせているかを問うている

A	B	C	D	該当なし
3	12	2		

第4章 低年齢児の保育実施上の配慮事項

* 子どもの年齢や発達に添った生活習慣を身につけさせる技術や安心安全への配慮を問うている

1、乳児期の保育に配慮する配慮事項:乳児期担当保育者(設問7項目)

A	B	C	D	該当なし
20	15			

2、満1歳以上～満3歳未満児の保育に関する配慮事項(設問4項目)

A	B	C	D	該当なし
12	8			

第5章 指導計画作成に当って配慮すべき事項(設問6項目)

* 保育過程などに基づいた計画的な保育をし、PDCAのサイクルで実行できているか問うている

A	B	C	D	該当なし
6	17	1		

第6章 研修と自己評価(設問5項目)

* より良い保育のため自己研鑽をつんでいるかや、自己評価を行っているかを問うている

A	B	C	D	該当なし
5	13	5		

第7章 子育て支援(設問5項目)

* 保護者と子育てについて情報交換ができているか、地域の関係団体と連携がとれているかを問うている

A	B	C	D	該当なし
11	11	2		

【自己評価をうけて園の現状と今後の課題】

保育者に対して、上記チェック事項とは別に次の設問が設定されています。

「自己点検・自己評価をして、あなたはどんなことに気づきましたか？それぞれの項目に記述してください」

その内容も加味して簡潔に園の現状と課題を記入します。

- 1、園長経験者が5名中2名いて園全体を把握するだけのキャリアがある。そのためスムーズな運営ができている。
→経験があるという事は毎年同じような流れになりがちで、新しい取り組みが課題。
- 2、各年齢に応じた保育と発達の固有性に合わせた対応は出来ている。
→園児の人数よりも充実した保育士の数がある。当保育所の一番の強みといえる。
- 3、食育に関しては、管理栄養士が在籍しているため食事の提供においては、生活の基本の食を営む力は年齢に応じて少しづつ育まれてきている。
→家庭での食育が重要な部分をしめるので、給食だけに頼り切らない食育を訴えて行きたい。
- 4、障がい児と認定された園児は現状いないが、昨今の傾向かグレーゾーンと思われる場面は時々ある。
→グレーゾーンの部分は大きな課題で、専門的研修を受講させながら辛抱強く保護者と連携をとりたい。
- 5、言葉や表現力については同じクラスでも個人差がかなりあり、保育者の関わりが大きな部分になってくる。
→家庭で保護者が関わりきれれば問題は少ないが、1歳から2歳が本当に大事な時期で、早めの入園を推奨している。
- 6、子育て支援に関しては、保育者に話しやすい雰囲気や環境が大切で窓口としては特に設置していないが日常のコミュニケーションを大切に、言葉がけを心がけている。

以上です。